

# 「プラタナスの木」(四年下)



心に残ったことを感想文に書こう。

## プラタナスの木

椎名誠



「マーちゃんいつも遊んでいる神樹は、せいぬ高い  
花島君、ハイソックスが好きなクンスケ。それに、  
アラマちゃん。本日は花島さんというのだけれど、  
ほくせが、あらま、だが、いつのまにか、そん  
まはれるようになった。四半生になって、クンスケは  
別名になったけれど、それまではずっと同じクンス  
ケで、楽し過ぎて、たまにまだに神樹した。

「マーちゃんもまるまるこのおぼろげの公園で、ハイソックスの  
クンスケが一本だけ生えているので、アラマちゃんも遊んでいる。中半生や  
後半生は、花島さんというのだけれど、ほくせが、あらま、だが、いつのまにか、そ  
まはれるようになった。四半生になって、クンスケは別名になったけれど、それ  
まではずっと同じクンスケで、楽し過ぎて、たまにまだに神樹した。



4年生のマーちゃん、花島君、クンスケ、アラマちゃん  
は、仲良しの遊び友達。1本の古いプラタナスの木が  
生える公園で遊ぶうちに、あるおじさんと親しくな  
り、木の根の存在や役割について教わる。夏休み後、  
おじさんのいない公園で、台風によって切り株だけ  
になったプラタナスの木を目にして、4人は地中に広  
がる根を思いながら、切り株の上に立つ。木の根がた  
たえる力、その恵みをさわやかに描いた作品。

作家  
椎名誠

## 切り株が 教えてくれたこと

その本の名前は残念ながら忘れてしまっ  
た。子供向けに書かれた学習絵本とでもい  
うのだろうか、記憶の中にあるタイトルは  
「木」だった。木について書いてある。ま  
ず話は文字の説明から始まったように記憶  
しているが、最も強く印象に残ったのは、  
木は上下対称である、というひとことだっ  
た。つまり地上から出ている木は、地中で  
も、地上で見る木と同じような姿をしてい  
るという指摘である。

全ての木にそれがあてはまるとは書いて  
いなかったようだが、まあ、ある種の典型  
的な木を指しているのだろう。だからその  
木を何かものすごい力ですっぽり引き抜い  
てしまうと、地上から上の木と同じ形をし  
たものが地下から現れる。地下のそれは根  
であるが、考え方としては、その木を逆さ

にして地面に植えてしまうと、空中に広  
がった根は今まで地上に広がっていた枝と  
同じような状態になるということだ。  
子供向けに書かれている本だから、深い  
植物学的な記述は、それ以上はなかったよ  
うに思うが、多くの思考の中にその指摘は  
深く残った。木をそれまであまりにも知ら  
な過ぎたという悔恨がある。また、それだ  
け大きく地中に根を張らないと地上で見る  
ゆさゆさした緑たつぶりの健全な枝葉を維  
持することができないというわけだ。

その当時、ぼくはよく山歩きをしていた。  
どんな山でも、ふもとから高みを目指して  
いく間にはおびただしい種類の樹木が茂っ  
ている。ああ、これらの木も地上と同じよ  
うに大地に深く根を張っているのだなあ、  
とそれまで考えもしなかったある種の感動  
を得たのだった。高度を増していくうちに  
植生はどんどん変わっていく、もう大きな  
木は見られなくなっていく。山の岩盤がそ  
れだけ固くなっているのだな、ということこ  
も今まであまり考えずにいたことだった。

山でも平地でも、ときおり大きな木の切  
り株を見る。いずれも何かの理由で伐採し

たのだろうが、切り倒された地上から上の  
木は、木としての生命を当然終えているは  
ずである。けれど切り株から下の生命はま  
だ生きている。これまで支えていた地上か  
ら上の幹や枝葉をそっくり失った切り株を、  
今までない目で意識するようになったの  
もその頃からである。

そのあたりに生きる人間たちにとって、  
切り株から下の根の世界はもう何の存在感  
も意味もなくなってしまうのだろうか。「空  
虚」という思いが頭をよぎったが、それで  
も地中ではその根を利用したおびただしい  
小動物や虫たち、そしてバクテリアなどが  
変わらず活発に生きているのだろうか、と  
いう少し違った見方もできるようになった。  
けれど人間になぞらえれば、木を幹から切  
り倒してしまうということは、その木のそ  
のあと何年続くだろうかかわからない、たぶ  
ん途方もなく長い、きっと人間たちよりも  
はるかに長い命を絶ってしまったというこ  
とである。

話は変わるが、一九七八年から十年間ほ  
ど東北で大きな話題になった青秋林道(青  
森県と秋田県を結ぶスーパー林道)問題と

いうのがあった。場所は白神山地。積雪量  
の多い奥深き山だから、道を作ったって一  
年のうち八か月は積雪で使えず、雪が消え  
ても二か月は補修工事となるのが目に見え  
ている。なんとも意図不明の大規模工事計  
画だった。そのスーパー林道を建設する予  
定のエリアに樹齡四百年ともなるブナの大  
木があって、数百本ほども切り倒される計  
画になっていた。

ある保護団体に加わって、ぼくはその反  
対運動のために、四季それぞれ道路建設予  
定現場に行つてキャンプし、道路建設中止  
のひとつの法律的素材になるクマガラ(日  
本最大のキツツキ)の営巣地探しをしてい  
た。切り倒される予定になっている数百本  
のブナは、それぞれ簡単には取り外せない  
金属製の赤いはちまきのようなものをくく  
りつけられていた。

結果的に言えばこの計画は阻止され、今  
は世界遺産となつて許可なしでは入山でき  
ないようになっていくが、ちっぽけな力な  
がらぼくをその反対運動に駆り立てた源は、  
その一本の木を描いた絵本だったのである。

しいな・まこと

一九四四年、東京都生まれ。作家。一九七九年より、小説、エッセイ、ルポなどの作家活動に入る。主な著書に、「天の系譜」(講談社)、「丘物語」(集英社)、「アド・バード」(集英社)、「中国の鳥」(新潮社)、「黄金時代」(文藝春秋)、「アイスプラネット」(講談社)など。

作者・筆者からのメッセージ